

自分を好きになる

発行日 2019年12月27日

◎第2回生徒総会



12月17日(火)に生徒総会が行われました。3年生を中心として充実した平成最後の生徒会活動が今年度もできたことが確認されました。

また、来年度の令和初の生徒会役員の発表もありました。先輩たちが築いてきた良き伝統を更に発展させてくれることを期待しています。



令和2年度 坂城中学校 生徒会正副会長

生徒会長：滝澤 舜 女子副会長：林 春花 男子副会長：春日信太郎

◎2学期終業式 校長講話より

(※ 一部省略 文責：森川)



「坂中生よ 大志を抱け」Ⅲ

坂城町名誉町民 鈴木直三 氏

1学期の終業式には、坂城町名誉町民のうち、日精樹脂工業創業者の青木固さんのお話をしました。

今日は2学期の終わりですので、名誉町民第2弾 鈴木直三さんのお話をします。

消防署から南条小に向かう産業道路の左側に公園があります。ここには、以前、貞明保育園がありました。その公園の真ん中に胸像があります。これは鈴木直三さんの胸像で、坂城町名誉町民第2号の人です。

鈴木さんがどんな形で坂城町に貢献したのか。それは、胸像の裏の台座に「貞明保育園建設(昭和40年)建設費用1500万円のうち、1000万円を寄付」と刻まれています。その功績を称え、昭和40年、貞明保育園の中に胸像が建立されました。

鈴木さんが生まれたのは、明治33年、坂城町の中之条。実は、庁務員の鈴木さんのお父さんの弟、つまり、鈴木さんの叔父さんにあたります。

鈴木直三さんは、大正8年、大志を抱いて上京し、専修大学を卒業。その後、印刷局、宮内庁、銀座松屋、防衛庁、東京都庁と職業は変わり、辛酸をなめつくしたが、いつも「心のふるさと中之条は忘れなかった」といいます。ご両親が亡くなった昭和26年以降、中之条敬老会へ毎年5万円、10万円と寄付されていました。昭和37年には、中之条公民館建設

にかかわり、土地代・建設費５８０万円を寄付されました。

その功績から、昭和３７年、第２号名誉町民となったのです。

その年は、坂城中が誕生した年です。村上、坂城、中之条にあった中学が統合した時、村上の生徒が今の坂城中に通いやすいようにと、坂中生の為の橋が架けられました。当時は木造の橋で、名前もなかったので、名誉町民の鈴木さんに依頼をしました。

それが、「大望橋」です。鈴木さんは「坂中生に大志を抱いてほしい」と願い、北海道大学に赴任していたクラーク博士の言葉「少年よ、大志を抱け」から、大望橋と名付けたのです。今の橋は、平成１４年に向け替えられましたが、その鈴木さんの思いを乗せた橋を村上地区の皆さんは毎日登下校しているのです。

このほかにも、鈴木さんは、昭和４２年、坂城中の創立５周年記念の時、坂城中へ天体望遠鏡・観測ドームを寄付してくれています。

鈴木さんの大切にしている考えは、昭和３７年名誉町民受賞式での挨拶からも伺えます。「坂城の家を出るとき両親から『世の中のお役に立て！』と言われた言葉を改めて噛みしめています」と話されています。その後、昭和３９年に坂城町を訪れた際の挨拶では、「地位も名誉もいらぬ。金は生きているうちに社会公共の為に」と話されています。

今年は皆さんに大志を抱いてほしいと願い、校長講話をしてきました。今日で、２学期が終わります。春休みには、２年生の希望者によりシリコンバレーへの海外視察研修が行われます。

鈴木さんの「人生は修養です。とくに中学生時代はそれが大切です。坂中の名声を広め高めてください。また、今後社会に出ても坂中卒業生だと胸を張って誇り得るような立派な人間形成に努力してください。」との言葉通り、大志を抱く新年にしてください。

来年１月８日、全校元気で新しい年をスタートさせましょう。全校の皆さん。よいお年を迎えてください。

◎人権作文感謝状授与

２４日、人権意識高揚のための諸活動が認められ、法務省より、感謝状をいただきました。毎年審査には一苦労するという人権作文にも坂城中学校から多く入賞しました。

パイフォワードがアタリマエになりつつある坂城中学校をほこりとし、チーム坂中として、生徒、保護者、職員がともに安心できる坂城中学校づくりを今後も目指していきます。



保護者の皆様へ



教職員の非違行為のニュースが後を絶ちませんが、坂城中学校では、折に触れて非違行為防止研修に努めております。何かご心配なことがございましたら、なんなりとお知らせください。

